

ES細胞作成

ヒトクローン胚から

韓国研究グループ 臓器複製に道

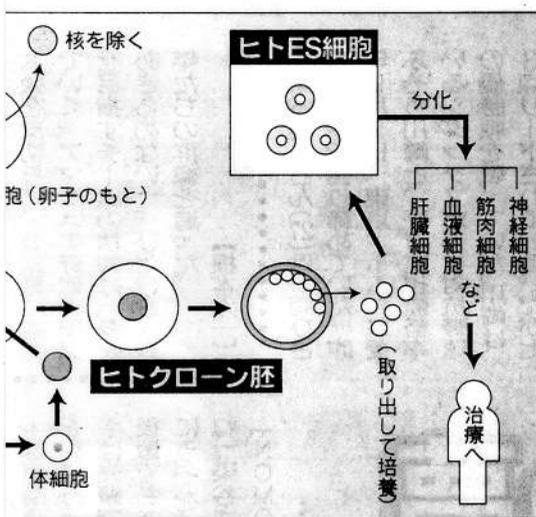
除き、卵母細胞と同じ人

ヒト胚とヒトクローン胚 受精卵が分割し、胚盤胞と呼ばれる段階まで分裂が進んでくる。「ヒトクローン胚」は、未受精卵の核を、クローンを作りたい患者の体細胞の核に置き換えてつくると、クローン胚からES細胞をつくれれば、拒絶反応がない組織や臓器(胚性幹細胞)は胚からつく

や筋肉などさまざまな細胞に分化することも確かめられた。【足立有子】 勝木元也・岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所長の話 ES細胞が再生医療に有用かどうか科学的に実証されていない段階で、ヒトクローン胚に手をつけるのは時期尚早だ。200個以上の卵母細胞から1株しかできないうえ、実用性にも疑問がある。

ヒトのクローン胚を使い、体を構成するあらゆる細胞になる能力を持った胚性幹細胞(ES細胞)をつくりに成功したと、韓国・ソウル大などの研究チームが12日、米科学誌「サイエンス」(電子版)に発表した。研究グループは「理論的には、拒絶反応の起きない移植用の細胞や組織をつくれることになり、脳神経疾患や糖尿病などの再生医療につながる」としている。しかし、クローン人間づくりにつながる技術を利用しており、生命倫理をめぐる議論を呼ぶことになりそうだ。(4面に解説)

研究グループは、インフォームド・コンセント(十分な説明に基づく同意)を得た16人の女性から242個の卵母細胞(卵子のもと)の提供を受けた。このうち176個の卵母細胞の核を取り



このES細胞をマウスに移植したところ、神経